

とうごう 歴史発見! 魅力発信!!

東郷町ゆかりの武将 丹羽氏重が歴史を動かした?

紀国
戦行 vol.2

現在、放送中の大河ドラマ「どうする家康」。実は東郷町に徳川家康を天下に導いた武将がいたことをご存知でしょうか。その武将の名は「丹羽氏重」、当時16歳の若武者です。氏重は家康に何をもたらしたのか、今回は前編として、その一部をお話します。

戦国の頃、東郷町の諸輪や傍示本は岩崎城を居城としていた丹羽家が治めていました。氏重は諸輪中城・傍示本城の城主として、東郷町の一部を治めました。そんな氏重が歴史の表舞台に登場するのが、天正12年(1584)の「小牧・長久手の戦い」です。羽柴秀吉と徳川家康が直接対峙した歴史的重要な戦いです。この時、丹羽家は徳川方として参戦。岩崎城主である兄の氏次は小牧山城の家康のもとへ援軍に向かい、その留守を託されたのが傍示本城主である弟の氏重でした。東郷町から出発した氏重、彼がこれから歴史を動かす当の本人になります。

小牧山城と楽田城(犬山)で両軍が膠着状態になると、秀吉は家康の領国・岡崎攻めを画策、小牧山城から家康をおびき出そうとします。その軍は総勢約2万5千人にもおよびました。彼らが岡崎に向かう道中に氏重が守る岩崎城があったのです。

4月9日早朝、岩崎城の近くを行軍する軍勢を確認した氏重。敵の先陣・池田恒興が家康の三河に向け進軍していると悟ります。氏重が率いていたのはわずか200人ほどでした。対する池田軍は約7000人。どうする氏重。氏重はこの行軍を阻止すべく圧倒的兵力差の敵と戦うことを決めたのです。この後、氏重はどうなったのでしょうか。この続きは後編(9月号掲載予定)でお話します。

次回は氏重の居城・傍示本城についてご紹介します。

【文】岩崎城歴史記念館 学芸員 内貴健太

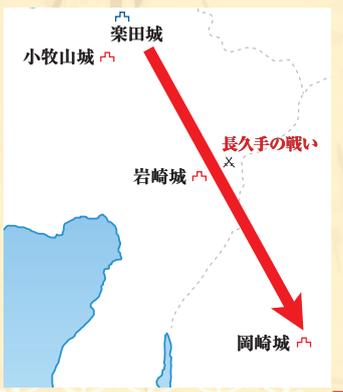
◎問い合わせ 生涯学習課 ☎0561・38・6411



丹羽氏重像(岩崎城歴史記念館蔵)



徳川家康像(大阪城天守閣蔵)



東郷町公式 LINE

東郷町公式 Twitter

東郷町公式 Instagram

Catalog Pocket いつでもどこでも気軽に読める!
10言語対応配信中!

シティプロモーション動画「ちょうど級タウン東郷町」